

平成27年度(2015)の行事予定

生物多様性豊かな草原の復元管理計画 植生調査とネザサ刈りを行います

東お多福山草原保全・再生研究会

植生調査は調査班を編成して行います。調査班は草花に詳しい人を調査員として、これから植生を勉強しようと思う人は調査補助員として、筆記だけの人は記録員として、カメラをもってカメラマンとして、刈り払い機、鎌や刈り込み鉋が使える人はネザサ刈りを行っていただきます。いろいろな参加形態がありますので、気楽に参加ください。

○集合場所は東お多福山北方、土樋割峠です。

平成27年4月14日(火)	早春の全面刈り	予備日 4月15日(水)	大人数必要です	集合9:00AM	申込4月3日まで
平成27年5月20日(水)	春の植生調査及び外構の笹刈り	予備日 5月21日(木)		集合9:00AM	申込5月9日まで
平成27年7月22日(水)	夏の植生調査及びコドラートの笹刈り	予備日 7月23日(木)	大人数必要です	集合9:00AM	申込7月12日まで
平成27年10月7日(水)	秋の植生調査及び外構の笹刈り	予備日 10月8日(木)		集合9:00AM	申込9月26日まで
平成27年11月25日(水)	晩秋の全面刈りその1	予備日 11月26日(木)	大人数必要です	集合9:00AM	申込11月14日まで
平成27年12月12日(土)	晩秋の全面刈りその2		現役世代歓迎!	集合9:00AM	申込12月1日まで

- ※東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座も開講します。詳しくは5Pをご覧ください。
 行事の問い合わせは、桑田(H・P 090-3166-9785)までどうぞ。
 ○当日の天候判断は、前日の17:00迄に行い、各団体で参加者に通知してください。
 ○参加人数は各正会員(団体)、各協力団体でまとめ、
 副会長 桑田または副会長 橋本(TEL&FAX:079-559-2014)までお知らせください。
 ○傷害保険、交通費などは各自で対応をお願いいたします。

平成26年度(2014)の報告

平成26年度は下記の通り、行事を行いました。

平成26年4月9日(水)	早春の全面刈り	参加者	54名
平成26年5月14日(水)	春の植生調査・外構部のササ刈り	参加者	49名
平成26年6月28日(土)	生物多様性ガイド養成講座 第1回	参加者	48名
平成26年7月23日(水)	夏の植生調査および外構・コドラート内の笹刈り	参加者	30名
平成26年9月6日(土)	生物多様性ガイド養成講座 第2回	Staff 6名	参加者 14名
平成26年10月8日(水)	秋の植生調査および外構の笹刈り	参加者	43名
平成26年10月16日(木)	生物多様性ガイド養成講座 第3回	Staff 6名	参加者 7名
平成26年10月18日(土)	生物多様性ガイド養成講座 第4回	Staff 8名	参加者 42名
平成26年10月26日(日)	「ひょうご森のまつり2014」へのブース出展	参加者	35名
平成26年11月2日(日)	「こうべ森の文化祭2014」へのブース出展	Staff	2名
平成26年11月16日(日)	生物多様性ガイド養成講座 第5回	Staff 7名	参加者 12名
平成26年11月26日(水)	晩秋の全面刈り	参加者	56名
平成26年11月29日(土)	株式会社伊藤園との協働による刈り取り	参加者	35名

東お多福山のススキ草原の再生を目指して

生物多様性豊かな草原の復元管理計画 平成26年(2014) 第7年次報告書

はじめに

かつて、東お多福山には多様な草原生植物が生育する六甲山系最大のススキ草原が広がっていました。しかし、戦後の採草活動・刈り取り管理の停止、山火事の減少などによりネザサの勢力が増してススキや草原生植物が極端に減少しています。私たちは、生物多様性の保全・再生の観点からススキ草原の復元を目指して平成19年度より活動をはじめました。

活動報告

今年度は従来の管理区域8,000㎡を早春、晩秋の2回に分けて刈り取りとったほか、晩秋には芦屋市域の特別保護地区に位置する眺望点までのハイキング道両脇の約1,000㎡のネザサを新たに刈り取りました。また、神戸市森林整備事務所によるハイキング道沿いのネザサ刈りが行われました。実験区での草原生植物の回復状況のモニタリングを行ったほか、2014年2月には東お多福山産の草原生植物の苗を草原内に移植し、その定着状況についても調査しました。結果、草原生植物種数・被度は横ばいとなりましたが、ススキの被度は増加傾向にあること、移植株の多くが定着したことが確認されました。

普及活動では2期目となる「東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座」を神戸県民センター、ひとはくと共催しました。昨年度は雨天中止となった受講者による模擬セミナーを今年は無事実施することができました。また修了生の中からガイド活動の協力が得られることとなり次年度以降の活動が楽しみです。活動資金は複数の助成金制度により賄うことが出来ましたが、次年度11月以降の予算確保が必要です。



写真(左):1974年当時の東お多福山のススキ草原。わたしたちはこの姿に再生することを目指しています。

写真(右):方形区内で手厚く保全されたススキの株は大きく、背丈も高くなっています。ススキ草原らしく姿になっています。

植生調査と
ネザサ刈りを
行っています。

■指導

兵庫県立人と自然の博物館
服部 保 名誉教授
橋本佳延 主任研究員

■実施団体

東お多福山草原保全・再生研究会
 <メンバー>ブナを植える会、こうべ森の学校、(公社)日本山岳会関西支部、
 芦屋森の会2001、神戸植生研究会、淡河かやぶき屋根保存会くさかんむり、
 生涯学習塾「めばえ」、西宮明昭山の会、NPO法人豊かな森川海を育てる会、
 マスターズゼミ山登りの会

■協力機関

兵庫県神戸県民センター、環境省近畿地方環境事務所、
 神戸市建設局森林整備事務所

この事業は下記の助成を受け実施しています。

阪急阪神 未来のゆめまち基金、公益信託自然保護ボランティアファンド、森と緑とのふれあい支援事業助成金、
 コープこうべ環境基金、公益信託大成建設自然・歴史環境基金、公益財団法人日野自動車グリーンファンド

事務局 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 兵庫県立人と自然の博物館 橋本佳延

東お多福山草原保全・再生研究会 事務局:橋本佳延

TEL & FAX 079-559-2014 E-mail:quercus@hitohaku.jp

これまでの調査結果

本活動では平成19年秋より年1~2回の刈り取りを実施し、ススキやその他の草原生植物の生育状況、種多様性の変化を調査しています。調査では草原内に設置した5つの10m×10mの方形区の中にさらに3つの小方形区(2m×2.5m)を設け、方形区内の植物相と小方形区内の植物の種数、ススキとネザサの草丈、各植物の被度の計測を行っています。

(1) 調査区2の状況

2014年は秋のみ刈り取りを行いました。ネザサの被度は2013年と同様80%を越えていました(図2)が、最大高は0.63mと前年よりも低くなりました(図1)。ススキについては前年同様にネザサよりも最大高が高く維持された(図1)ために、ネザサによる被陰影響はありませんでしたが、平均被度は20%を下回り減少していました。

草原生植物の被度合計は2013年よりわずかに増加しています(図3)が、傾向としては横ばいです。草原生植物の種数は16.7種で前年より2.3種の減少、被度合計については微減しているものの、2009年以降はほぼ横ばいといえます(図3)。

(2) 調査区3の状況

2014年も夏にネザサを選択的に刈り取りました。そのためネザサの被度は2013年と同様16.7%と低い値でした(図2)。またネザサの最大高は0.17mとなり2013年よりも更に低く抑制されました(図1)。草原生植物種数は12.0種となり、前年より1.3種増加、被度合計は3.1%と前年度に比べ1ポイント以上の増加がみられました。これはネザサによる被陰が解消されたためと考えられます(図3)。ススキは最大高が1.53mと増加傾向にあり、前年同様にネザサよりも高く維持されています(図1)。また、被度も53.0%となり2007年の管理開始より順調に増加していました。

(3) 調査区4の状況

2014年は秋のみ刈り取りを行いました。ネザサの最大高は0.33mと低くなり(図1)、被度も70.0%と前年とほぼ同じに推移しました(図2)。ススキは植物高が1.22mと前年度よりも高くなり、ネザサよりも高く維持され(図1)、被度も微増しました(図2)。草原生植物の被度合計は2013年より1ポイント以上増え、2010年度以降は増加傾向にあります(図3)。一方、種数は微減していましたが2007年の管理前の状態からほぼ横ばいに推移しています(図3)。

(4) 調査区5の状況

2014年は夏にネザサを選択的に刈り取りました。そのためネザサの被度は16.7%

と前年よりも低く(図2)、最大高も0.22mと低く抑制されました(図1)。ススキについては植物高が1.13m(図1)、被度も46.7%となりいずれも微減していますが、大きな傾向としては2007年の管理開始より順調に増加しています。草原生植物種数は12.3種と微減、被度合計は4.0%と前年度より0.6ポイント増加しましたが、大きな傾向としては2011年より横ばいといえます(図3)。

(5) 調査区6の状況

2014年は夏にネザサを選択的に刈り取りましたが、ネザサの被度は前年よりも増加し33.3%となりました(図2)。一方、植物高は0.28mと低く抑制されました(図1)。ススキについては植物高が1.02mとなり、上下動を繰り返しながら2010年からほぼ横ばいに推移しています(図1)。被度は30.0%で2012年からほぼ横ばいに推移しています。草原生植物種数は5.7%と前年度より1.7ポイント減少しました(図3)。

(6) まとめ

モニタリングの結果、ススキの生育状況はNo.3~6のいずれも良好で、管理開始時より順調に増加しています。No.2は草丈がもっとも高い区画となっていますが、被度の減少がみられますので今後の推移を注意する必要があります。夏にネザサを選択的に刈り取っているNo.3、No.5ではススキの優占群落が維持されるようになってきました。東お多福山草原の本来の姿であるススキ-ネザサ群集の植生構造(背丈の高いススキの足下でネザサが繁茂する)も全区画で維持されています。

草原生植物については、夏のネザサの選択的刈り取りを何度も行ってきたNo.3では種数や被度が順調に増加していますが、No.5,6については頭打ちの傾向にあります。夏の選択的刈り取りの実施回数の少ないNo.2、No.4についても種数・被度ともに頭打ちの傾向にあります。

東お多福山草原を草原生植物豊かなものとするためには、今後は刈り取りの継続によってこれらの状態を維持するとともに、管理面積を広げ草原内に残る草原生植物個体群の保全箇所を増やしていくことが必要です。また東お多福山草原内で採集した種子の播種や、東お多福山産の種苗を育て再移植するなどの保全手段を検討する必要があります。No.4付近で2014年2月にその移植実験を行っており、今後の推移をモニタリングしていきます。

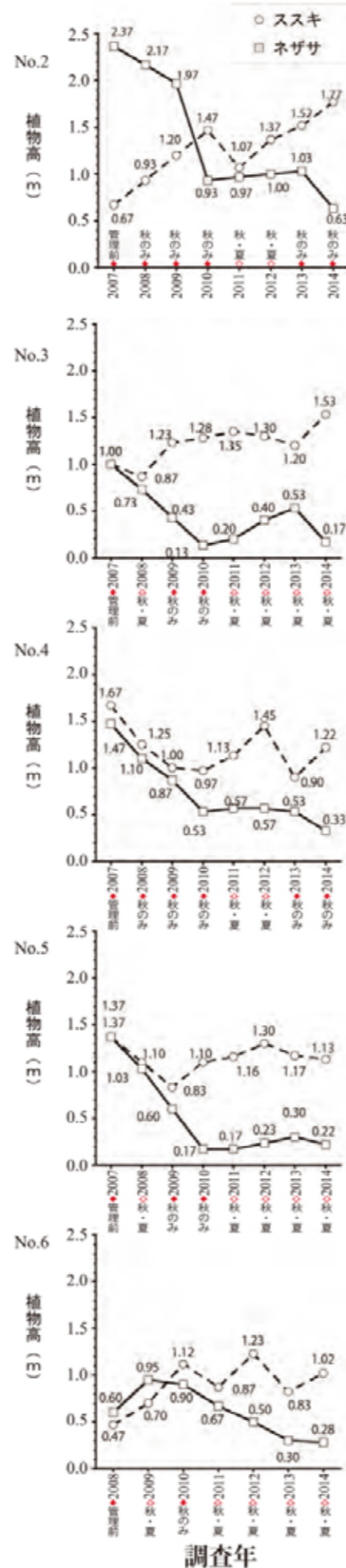


図1 ススキおよびネザサの植物高の推移(秋季) ↓は刈り取り時期を示す。夏はネザサを選択的に刈り取っている。

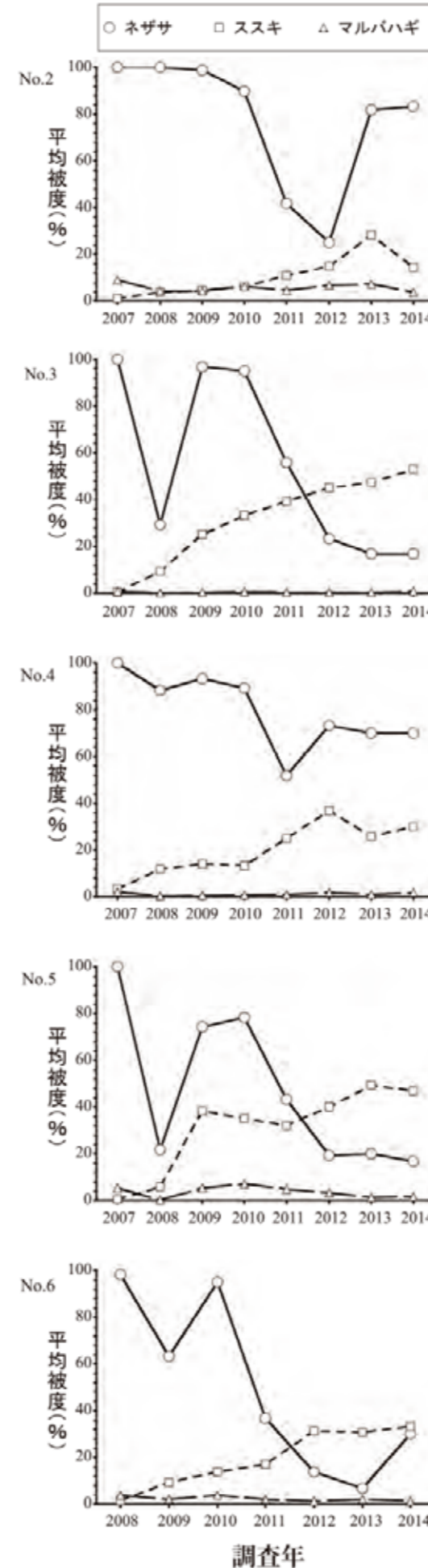


図2 各調査区におけるススキ、ネザサ、マルバハギの被度の推移

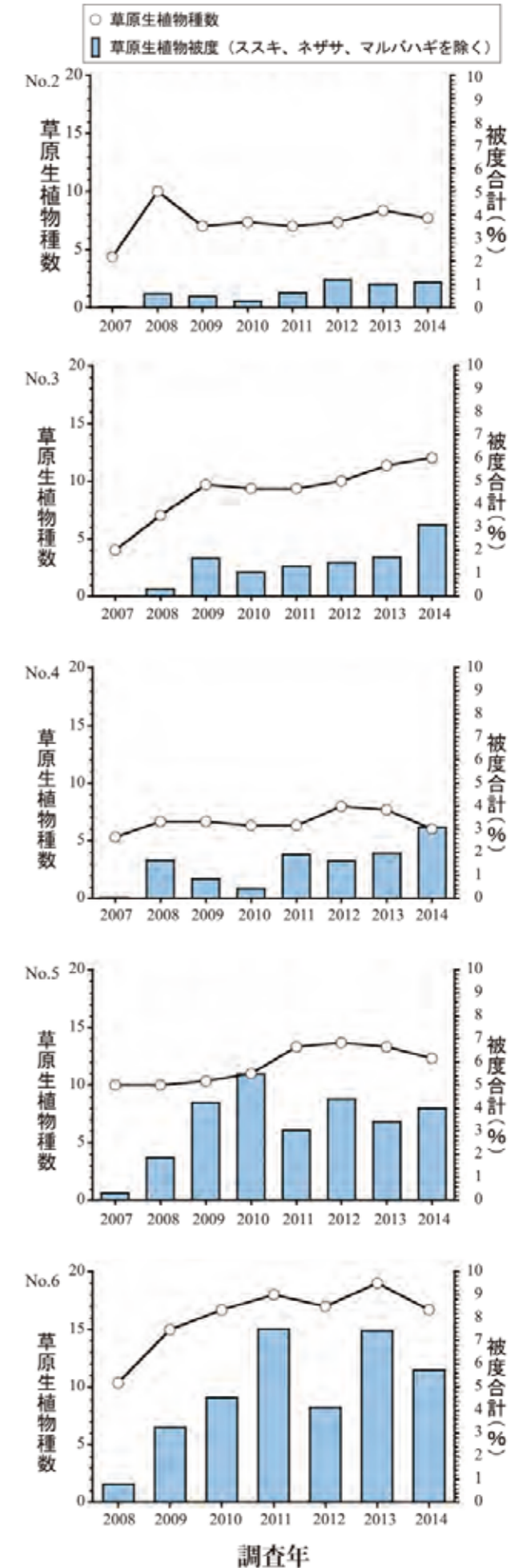


図3 各調査区における草原生植物の種数(5mあたり)および被度合計の推移(被度合計についてはススキ、ネザサ、マルバハギを除く)

芦屋市域特別保護区の眺望点への登山道の刈り取りを管理開始! (橋本佳延)

これまでの研究会での草原管理活動は、神戸市域(第2種特別地域)を中心に行われており、芦屋市域(特別保護地区)ではワレモコウほか草原生植物が偏在する一画(約100㎡)に限られていました。芦屋市域が特別保護地区に指定された理由には「大面積のススキ草原が広がること」「眺望が良いこと」が挙げられていることから、私たちは活動当初より特別保護地区での草原管理の実施を切に望んでいました。しかし活動当初は、面積拡大に耐える活動人数が確保出来なかったこと、特別保護地区における活動は厳しく制限されていることなどから着手を見送ってきました。

6年間の活動を積んできた結果、メンバーが草原管理作業に慣れたこと、活動団体も増加し毎回の活動に60名以上が確実に参加するようになったこと、活動実績を積み環境省をはじめ行政機関からの信頼も得られるようになってきたことから、機は熟したと判断し、平成26年度から芦屋市域の草原管理面積を拡大することにいたしました。

許可申請の関係上、今回はいきなり大面積を刈るのではなく、ササの繁茂で通行が困難になっていた登山道沿い両脇1m幅のネザサを刈ること、また特別保護地区内にある眺望点と登山道を結ぶ里道を確保する事を優先して約1000㎡の面積拡大としました(図)。道沿いは草原生植物が比較的残っている場所でもあり、生物多様性保全の観点からも優先して管理を行うべき環境です。

作業では、急な斜面も含む作業になったにもかかわらず予定通り刈り取り作業をすすめることができました。登山道の見通しもよくなり、多くのハイカーにも喜んでいただけるものと思われまます。登山道や眺望点での眺望も改善し、東お多福山から見下ろす瀬戸内海の景色も楽しんでいただけるでしょう。また数年後には道沿いの草原生植物の生育状態も改善することも期待されます。今後は道幅の拡幅や、平地地への刈り取り面積の拡大を図り特別保護地区におけるススキ草原の復元を実現させていきたいです。引き続き皆様のご協力をお願いします。



図 2014年度秋から管理を開始した登山道区間(赤色)と既存の特別保護区管理エリア(緑色:ワレモコウ保護区)。青丸は写真撮影地点

東お多福山草原ガイド養成講座2期の実施と、ガイドの誕生! (橋本佳延)

今年度も昨年度同様、東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座を、兵庫県神戸県民センターとの共催で実施いたしました(写真は実施の様子)。昨年度は台風の影響で受講生による模擬ガイドを実施できず、主催者も受講者もやや消化不良な形で修了しましたが、今年度は天候にも恵まれ、念願の模擬ガイドを実施することができました!

模擬ガイド実施日には受講生、一般参加者、講師陣を合わせて42名で東お多福山草原内を散策。受講生は担当の解説地点に到着すると、教本の内容を思い出しながら自分自身の言葉で草原の魅力に参加者に語りかけていました(写真 右3段目~5段目)。

受講者からは「人前ではなすことは大変緊張した」「でも自然のすばらしさを自分から伝えることで気持ちを共有することが嬉しかった」などの声をいただきました。修了式の際に受講後のガイド活動についてお誘いしたところ、第1・2期の12名からこころよい返事!来年度からは観察会など魅力を発信する機会を設け、ガイドの活躍の場を増やしたいです。

なお、ガイド養成講座は平成27年度も神戸県民センターとの共催で実施する予定です。是非ふるってご参加ください(全5回。実施日:6月27日(土)、8月9日(日)、10月3日(土)、10月12日(月・祝)、11/28(土))。

受講生の声 - 西宮明昭山の会 満洲山紀子さん

4月、東お多福山に登山に行き、山頂から雨ヶ峠に向かって歩いているとき、あまーい良い香りが漂っています。何かな?と思い周囲を見渡せば、足元にスミレが咲いていました。ニオイタチツボスミレ他、多くのスミレの種類が登山道沿いにいっぱい咲いていました。この道は以前は背丈(2.0m)を超すネザサに覆われていた登山道です。今までの活動の結果、6月にはササコリ、秋にはススキの穂がたなびき、リンドウ、ノアザミ、センブリ、ツリガネニンジン、シラヤマギク他、多くの草原生植物を見ることが出来る山となってきました。2007年秋から始まった「ススキ草原の再生を目指して」の活動の一部区域のネザサ刈り取りから始まり、2013年までにススキの植被や草原生植物の種類も増加傾向にあることがわかりました。この活動や東お多福山を多くの人々にも知っていただきたい、今後も役に立てたらと思い、講座を受講してみました。講座ではガイドするとき心掛けることに始まり、植物の名前を知っているだけでなく、最初にコースの選定、下見、安全体制他...色々な事知っていなければならない事の多さに、自分の未熟さを思い知らされました。でも受講し、この活動に携わっていくかぎり、多くの知識を吸収し、ライフワークに行きたいと思いました。東お多福山が都市近郊にあることをいかし、レクリエーションの場や環境学習の場として、四季を通して楽しめる事を目指しています。是非一度、東お多福山に来て見て下さい。



株式会社伊藤園との協働作業を行いました! (平成26年11月29日(土)) (橋本佳延)

兵庫県自然環境課の仲介からのご縁で株式会社伊藤園(兵庫県エリア)の環境月間行事として東お多福山草原での晩秋のネザサ刈りを実施いたしました。社内で募集された際に手を挙げてくださった方は約50名でしたが、駐車スペースの問題や雨天による実施時間の変更などの影響で減り、当日は26名の社員と研究会のメンバー8人で2時間ほど汗を流しました。

心配していた午前中の雨の影響はほとんど無く、足下の不安も、雨に濡れたササもありませんでした。ぽかぽか陽気で汗ばむくらいとても活動のしやすい日となりました。参加されたみなさんは、はじめはササの集積のコツがつかめず戸惑っておられました。活動の後半は要領よく作業が進み、11月26日(水)の定例活動の際に刈り倒したネザサはあっという間に片付けられました。

伊藤園の環境月間活動は毎年場所を変えているそうですが、今回の縁を大事にして細くても長いおつきあいができれば嬉しいです(個人の参加も大歓迎です)。伊藤園の皆様、本当にありがとうございました!



ひょうご森のまつり2014に出展しました! (桑田 結)



ひょうご森のまつり2014は、養父市のハチ高原で開催されました。天候にも恵まれ、紅葉に彩られたハチ高原は多数の参加者で賑わいました。当研究会も兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会の一員として参加しました。

本年度のカヤ葺き体験会には、朝来市にある<カヤ葺き屋根保存会>の皆様が参加協力いただけるようになりました。カヤ葺き屋根の本職ではないが、有志の方々の集まりでカヤ葺き屋根の保存活動を続けられています。

例年のような三角屋根でなく、本年度は東屋風で中に入って楽しめるようなカヤ葺き屋根をリクエストして、見事立派なカヤ葺き屋根の東屋を作って貰いました。

数名の作業員が数時間で作り上げ、午後は、子供たちに中に入って楽しんで貰いました。使った材は、神鍋山のススキでしたが、地元ハチ高原の関係者も「これからは、ハチ高原のススキも使って欲しい」との申し出がありました。少しずつでも、カヤ葺き屋根が貴重な文化財である事が認識される事を願うものであります。

- 日 時 平成26年10月26日(日) 10:00~15:00
- 場 所 ハチ高原(養父市丹戸・大久保)
- 主 催 兵庫県・養父市・(公社)兵庫県緑化推進協会

研究会の財政基盤について~助成金の獲得~ (桑田 結)

8年目の活動に入った当研究会の活動も、開始時からみれば想像以上の成果をあげていると私は思っています。現在、行政機関からは環境省近畿地方環境事務所(神戸自然保護官事務所)、神戸県民センター、神戸市建設局森林整備事務所、研究機関からは兵庫県立人と自然の博物館、その他の研究者の協力が得られています。また市民団体については、ブナを植える会、日本山岳会関西支部、こうべ森の学校、神戸植生研究会、芦屋森の会2001、淡河かやぶき屋根保存会くさかんむり、西宮明照山の会、生涯学習塾「めばえ」、NPO法人豊かな森川海を育てる会、マスターズゼミ山登りの会の合計10団体が目標の一つにして活動を進めています(HAT-J 関西、六甲楽学会、NPO法人あいな里山茅葺き同人がこの期間に入退会されています)。

活動地は交通の便が悪く、また草原保全活動はネザサ刈りという多数の人数が必要で、毎年同じ作業の繰り返しのエンドレスな作業です。その為の活動費がどうしても必要となります。立ち上がりの3ヶ年(2008-2010)は、瀬戸内オリーブ基金に大変お世話になりました。今の研究会の活動が軌道に乗っているのもこの援助のお陰と心から感謝しています。その次の3ヶ年(2011-2013)は兵庫県緑化推進協会の支援をいただきました。7年目にも継続した公的支援を願い出しましたが叶いませんでした。今年度は各種の助成金を獲得して活動していますが、いずれも1年単位の助成のため、次年度の資金計画が直前にならなければ決まらないという悩みがあります。

出来れば、3ヶ年位の継続した助成金の受給を確保出来れば安定した活動を継続出来るのですが。

これから、いよいよ東お多福山は昔のようにハイカーに愛される山になろうとしています。安全な山歩きが出来る環境を維持するために、私たちの活動は続けますが、行政の関与が益々求められる時代に入って行くと思われます。

当会活動に支援いただいた助成制度の変遷

年	助成金名
2008-2010	瀬戸内オリーブ基金(ブナを植える会を窓口として獲得)
2011-2013	森と緑とのふれあい支援事業助成(兵庫県緑化推進協会)
2014	阪急阪神 未来のゆめ・まち基金 公益信託自然保護ボランティアファンド 森と緑とのふれあい支援事業助成金 コープこうべ環境基金
2014-2015	公益信託大成建設自然・歴史環境基金 公益財団法人日野自動車グリーンファンド

新会員紹介~ NPO法人 豊かな森川海を育てる会 (理事長 島本信夫)

1. 沿革

2011年9月住吉川流域の森・川・海で活動する4つの市民団体を母体に任意団体として設立、2013年9月にNPO法人として登記しました。会員数は個人会員61名、団体会員4団体です。

2. コンセプト

- 流域の森・川・海・まちは連続したひとつの統一体として機能しているとの認識にたち、森・川・海を巡る物質循環のバランスを回復させ、健全で豊かな流域環境の再生と保全を図る。
- 流域住民・市民団体・研究者・事業者・行政機関など多様な主体と協働しながら、次世代に豊かで美しい国土を継承し、持続可能な資源循環型の社会づくりに貢献する。

3. 活動状況

- 1) 住吉川流域の自然再生とまちづくり(2011年~)
森~川~海を結ぶ都市型河川の自然再生活動と流域のまちづくり
- 2) 砂問題研究会(2012年~)
流域(森~川~海)を巡る土砂の移動に関する調査研究活動
- 3) 山田川流域の自然再生とまちづくり(2014年~)
流域の里山づくり・多自然川づくり、まちづくりと連携した自然・景観・歴史文化の保全活動

4. 東お多福山草原保全・再生活動への取り組み

従来の植樹・育樹活動主体の森づくりと違い、六甲山の生物多様性の回復を目指した明確な目標と科学的な検証を取り入れた活動であることに強い関心を持っています。当会は戦力的には微力ですが、この活動の継続性とこれからの展開を興味深く見守り支援したいと思っています。



写真 都会の子供が豊かな原体験を身近な都会の環境(森・川・海)から得られるようなまちづくりをめざしています。